

議員事務事業評価シート（令和7年度事業）

作成日	令和8年9月17日
議員名	西田 一平

事業No.	当No. 72・実No. 57		
事業名	協働推進事業（地域支え合い生活支援事業補助金）		
担当課	まちづくり社会教育課	所管委員会	総務委員会

■ 議員評価（各評価上段に○）

事業内容 の評価 (区分の説明)	廃止		要改善	現行どおり	
	(事業を廃止もしくは凍結)		(事業の内容や手法に改善や見直しが必要)	(事業の内容や手法はおおむね現行どおり)	
予算規模 の評価 (区分の説明)	廃止	縮小		現状維持	拡充
	(予算はゼロ)	(予算は縮小)		(予算は現状維持)	(予算は拡大)

■ 評価判定に至った理由

（事業内容について）
予算執行額が低調な背景には、地域が本当に必要とする支援と本事業の制度とのミスマッチがあると考えます。対象範囲の緩和など、地域が利用しやすい制度への改善を進める必要がある。
（予算規模について）
実績状況を踏まえ、まずは予算を現状維持とし、利用しやすいルールへの見直しを進めることで利用団体の増加を図ることが最優先と考える。

■ 改善・提案内容

※ 予算規模の評価を「拡充」とした場合は、財源措置の考えについても記入してください。
地域の支え合いは、食卓のように身近な暮らしから育まれると考える。食を通じた交流や地元飲食店との連携など、食の力を活かした活用の幅を広げる仕組みがあれば、利用団体の裾野もさらに広がる。

議員事務事業評価シート（令和7年度事業）

作成日	令和8年9月17日
議員名	今田 実延

事業No.	当No. 72・実No. 57		
事業名	協働推進事業（地域支え合い生活支援事業補助金）		
担当課	まちづくり社会教育課	所管委員会	総務委員会

■ 議員評価（各評価上段に○）

事業内容 の評価 (区分の説明)	廃止		要改善	現行どおり	
	(事業を廃止もしくは凍結)		(事業の内容や手法に改善や見直しが必要)	(事業の内容や手法はおおむね現行どおり)	
予算規模 の評価 (区分の説明)	廃止	縮小		現状維持	拡充
	(予算はゼロ)	(予算は縮小)		(予算は現状維持)	(予算は拡大)

■ 評価判定に至った理由

（事業内容について）

低調な予算執行額の理由は、本当に地域が必要とする支援と当事業の制度のミスマッチによるものだと考える。事業の対象範囲の緩和など、利用しやすい制度に改善する必要がある。

（予算規模について）

実績状況から現状維持とし、まずは利用しやすいルールの見直しなどを実施し、利用団体を増やすことが最優先と考える。

■ 改善・提案内容

※ 予算規模の評価を「拡充」とした場合は、財源措置の考えについても記入してください。

議員事務事業評価シート（令和7年度事業）

作成日	令和8年9月17日
議員名	岡山 令子

事業No.	当No. 72・実No. 57		
事業名	協働推進事業（地域支え合い生活支援事業補助金）		
担当課	まちづくり社会教育課	所管委員会	総務委員会

■ 議員評価（各評価上段に○）

事業内容 の評価 （区分の説明）	廃止	要改善		現行どおり
	（事業を廃止もしくは凍結）	（事業の内容や手法に改善や見直しが必要）		（事業の内容や手法はおおむね現行どおり）
予算規模 の評価 （区分の説明）	廃止	縮小	現状維持	拡充
	（予算はゼロ）	（予算は縮小）	（予算は現状維持）	（予算は拡大）

■ 評価判定に至った理由

（事業内容について）
本事業は、住民の困りごとを地域で解消する取組であるが、ボランティアによる対応が適切な内容であるか、住民ニーズと提供できる支援との間に乖離がないか検証が必要である。加えて、事務局を介した仕組みの利用しやすさにも課題が見られる。予算執行率が高くないことを踏まえ、課題分析と事業内容の精査を行い事業のあり方を再検討する必要がある。
（予算規模について）
事業内容の検証・精査を行った上で、今後の事業のあり方や必要な予算額を検討すべきであるため、現時点では予算額は現状維持とする。

■ 改善・提案内容

※ 予算規模の評価を「拡充」とした場合は、財源措置の考えについても記入してください。
住民ニーズに応じた利用しやすい仕組みへの改善と、ボランティアに過度に依存しない支援方法の検討が必要である。本来地域住民同士で解決すべき課題なのか、福祉事業として支援すべき課題なのかを検証し、事業の対象範囲や支援のあり方を見直す必要がある。

議員事務事業評価シート（令和7年度事業）

作成日	令和8年9月17日
議員名	遠藤 祐之

事業No.	72		
事業名	協働推進事業（地域支え合い生活支援事業補助金）		
担当課	まちづくり社会教育課	所管委員会	総務委員会

■ 議員評価（各評価上段に○）

事業内容 の評価 (区分の説明)	廃止		要改善		現行どおり			
	(事業を廃止もしくは凍結)		(事業の内容や手法に改善や見直しが必要)		(事業の内容や手法はおおむね現行どおり)			
予算規模 の評価 (区分の説明)	廃止		縮小		現状維持		拡充	
	(予算はゼロ)		(予算は縮小)		(予算は現状維持)		(予算は拡大)	

■ 評価判定に至った理由

（事業内容について）
需要の多さにこの事業の効果を感じました。引き続き移住促進に力を入れさらに効果が生まれることを期待します。
（予算規模について）
当然、事業の成果が出れば出るだけ予算はかかります。逆に予算内に収まらないことを期待します。

■ 改善・提案内容

※ 予算規模の評価を「拡充」とした場合は、財源措置の考えについても記入してください。
随時臨機応変に対応すべきと考えます。

議員事務事業評価シート（令和7年度事業）

作成日	令和8年9月17日
議員名	花田 香

事業No.	当No. 72・実No. 57		
事業名	協働推進事業（地域支え合い生活支援事業補助金）		
担当課	まちづくり社会教育課	所管委員会	総務委員会

■ 議員評価（各評価上段に○）

事業内容 の評価 (区分の説明)	廃止		要改善	現行どおり	
	(事業を廃止もしくは凍結)		(事業の内容や手法に改善や見直しが必要)	(事業の内容や手法はおおむね現行どおり)	
予算規模 の評価 (区分の説明)	廃止	縮小		現状維持	拡充
	(予算はゼロ)	(予算は縮小)		(予算は現状維持)	(予算は拡大)

■ 評価判定に至った理由

(事業内容について)
本事業は、活用状況から考えると必要な事業であると評価する。が、事業の対象年齢や対象条件の設定について、現場である地域のニーズとのミスマッチがあり、必ずしも使いやすいものにはなっていない現状がある。今後は、こうした課題に対し見直しや改善をし、より現場に合った使いやすいものにする必要があると考える。
(予算規模について)
予算規模については、今後内容の見直しをした後に検討することがよいと考える。したがって、今は現状維持で良いと考える。

■ 改善・提案内容

※ 予算規模の評価を「拡充」とした場合は、財源措置の考えについても記入してください。
・利用条件にある程度の幅を持たせて設定する。（利用団体のニーズを聞き、現状に合った改善策をさぐる） ・「地域の支え合い」生活支援事業であるので、社会体育団体やスポーツ少年団、中学校や高校の部活動などの地域貢献としてボランティアで参加してもらう等、若い力を活かす制度を設計する。（各種団体と地域のマッチングは、行政がコーディネートする）

議員事務事業評価シート（令和7年度事業）

作成日	令和8年8月27日
議員名	戸津川美二

事業No.	72	
事業名	協働推進事業（地域支え合い生活支援事業補助金）	
担当課	まちづくり社会教育課	所管委員会 総務委員会

■ 議員評価（各評価上段に○）

事業内容 の評価 (区分の説明)	廃止	要改善		現行どおり
	(事業を廃止もしくは凍結)	(事業の内容や手法に改善や見直しが必要)		(事業の内容や手法はおおむね現行どおり)
予算規模 の評価 (区分の説明)	廃止	縮小	現状維持	拡充
	(予算はゼロ)	(予算は縮小)	(予算は現状維持)	(予算は拡大)

■ 評価判定に至った理由

(事業内容について)

地域においては、過疎化や独居の高齢者世帯が増加している。現状を踏まえると、この事業は規模の大小はあるものの、必要である。
補助事業の対象条件の取り扱いなど実施の方法を工夫するなどして、継続すべきと考える。

(予算規模について)

実績状況から、現行どおりとし、事業費の不足といった状況が見えてきた段階で、増額等を検討すべきと考える。

■ 改善・提案内容

※ 予算規模の評価を「拡充」とした場合は、財源措置の考えについても記入してください。

補助事業の条件など活用方法を検討し、居住地は当然であるが、隣接する家庭用として作付けされた畑は、可とするなど土地利用の状況を勘案し、柔軟に本事業が住民にとって活用しやすいよう検討されたい。

議員事務事業評価シート（令和7年度事業）

作成日	令和8年9月23日
議員名	村木 勝也

事業No.	当No. 72・実No. 57		
事業名	協働推進事業（地域支え合い生活支援事業補助金）		
担当課	まちづくり社会教育課	所管委員会	総務委員会

■ 議員評価（各評価上段に○）

事業内容 の評価 (区分の説明)	廃止	要改善	現行どおり	
	(事業を廃止もしくは凍結)	(事業の内容や手法に改善や見直しが必要)		(事業の内容や手法はおおむね現行どおり)
予算規模 の評価 (区分の説明)	廃止	縮小	現状維持	拡充
	(予算はゼロ)	(予算は縮小)	(予算は現状維持)	(予算は拡大)

■ 評価判定に至った理由

(事業内容について)
・草刈り支援や買い物支援などが含まれますが、実際の活用実績は草刈り作業への支援が大部分を占めている。 ・補助対象は、主に70歳以上の高齢者のみ世帯とされている。 ・予算165万円に対して予算執行額は約66万円にとどまっており、利用状況は低調となっている。 ・利用者や事業主体者と改めて事業構築するため「要改善」とした。
(予算規模について)
現状維持とします。

■ 改善・提案内容

※ 予算規模の評価を「拡充」とした場合は、財源措置の考えについても記入してください。
・地域によって支え合う内容が違う。基準は必要であるが、ある程度地域の裁量があつて良いと思う。(畑にイノシシの柵の設置依頼等も声があります。) ・事業主体が、地区まちづくり推進委員会のみでなく、自治会も対象として活動主体を増やす検討はどうか。

議員事務事業評価シート（令和7年度事業）

作成日	令和8年9月25日
議員名	森谷 公昭

事業No.	当No. 72・実No. 57		
事業名	協働推進事業（地域支え合い生活支援事業補助金）		
担当課	まちづくり社会教育課	所管委員会	総務委員会

■議員評価（各評価上段に○）

事業内容 の評価 (区分の説明)	廃止	要改善		現行どおり
	(事業を廃止もしくは凍結)	(事業の内容や手法に改善や見直しが必要)		(事業の内容や手法はおおむね現行どおり)
予算規模 の評価 (区分の説明)	廃止	縮小	現状維持	拡充
	(予算はゼロ)	(予算は縮小)	(予算は現状維持)	(予算は拡大)

■評価判定に至った理由

(事業内容について)
・名称変更による位置づけの刷新 現行の「シルバー人材センター」から「社会貢献センター」等への名称変更を提案。 60歳以上を対象とする場合、蓄積されたキャリアや専門知識を今後10年間有効活用できる仕組みへと再定義する。 ・草刈り業務の構造的課題 高齢者就業において、身体的負担の大きい草刈り作業は安全・体力面で限界が生じている。 若年層に代替・従事させる場合も、相応の適正な報酬を支払わなければ実質的な労働搾取・パワハラに繋がりがねない点を問題視。
(予算規模について)
予算を拡大しつつ、ソフト事業に充当可能な過疎地域持続的発展特別事業債（過疎債）の活用を検討・充当する。

■改善・提案内容

※ 予算規模の評価を「拡充」とした場合は、財源措置の考えについても記入してください。 単純重労働（草刈り等）への過度な依存を根本的に見直し、キャリア活用型・地域貢献型の業務へシフトするための予算配分を行う。

議員事務事業評価シート（令和7年度事業）

作成日	令和8年9月17日
議員名	大谷 学

事業No.	当No. 72・実No. 57		
事業名	協働推進事業（地域支え合い生活支援事業補助金）		
担当課	まちづくり社会教育課	所管委員会	総務委員会

■ 議員評価（各評価上段に○）

事業内容 の評価 (区分の説明)	廃止	要改善	現行どおり	
	(事業を廃止もしくは凍結)	(事業の内容や手法に改善や見直しが必要)	(事業の内容や手法はおおむね現行どおり)	
予算規模 の評価 (区分の説明)	廃止	縮小	現状維持	拡充
	(予算はゼロ)	(予算は縮小)	(予算は現状維持)	(予算は拡大)

■ 評価判定に至った理由

(事業内容について)
7地区まちづくり推進委員会が行う高齢者に対する生活支援等に対しては評価できる。しかし、久佐地区では草刈支援の実績はあるものの買い物支援の利用はないとのこと他地域での取り組みも少ないことから事業内容の周知や地域のニーズの応じた支援の項目や範囲について改善が必要と考える。
(予算規模について)
まずは現状の中で地域のニーズに対応し実績を積み上げて、今後の状況による中で予算的には対応すべきと考える。

■ 改善・提案内容

※ 予算規模の評価を「拡充」とした場合は、財源措置の考えについても記入してください。

議員事務事業評価シート（令和7年度事業）

作成日	令和8年8月27日
議員名	沖田 真治

事業No.	72			
事業名	協働推進事業（地域支え合い生活支援事業補助金）			
担当課	まちづくり社会教育課	所管委員会	総務委員会	

■ 議員評価（各評価上段に○）

事業内容 の評価 (区分の説明)	廃止	要改善	現行どおり	
	(事業を廃止もしくは凍結)	(事業の内容や手法に改善や見直しが必要)	(事業の内容や手法はおおむね現行どおり)	
予算規模 の評価 (区分の説明)	廃止	縮小	現状維持	拡充
	(予算はゼロ)	(予算は縮小)	(予算は現状維持)	(予算は拡大)

■ 評価判定に至った理由

（事業内容について）
- 令和7年度予算額165万円、予算執行額は約66万円と低調な事業である。 - 高齢化・過疎化が進む地域で必要性の高い事業であり、執行率の低さは制度と地域ニーズのミスマッチとして検証が必要 - 特に個人所有地の草刈りでは、農地であることを理由に対象外となるなど、地域の実情と制度の乖離が見られる。 - 本事業の課題は「地域支え合い」という目的に対し、ルールが地域の判断や柔軟な対応を狭めている点にある。
（予算規模について）
利用状況が改善されるまでは現状通り。

■ 改善・提案内容

※ 予算規模の評価を「拡充」とした場合は、財源措置の考えについても記入してください。
地域支え合い生活支援事業をまちづくり総合交付金の追加枠として位置付け、利用団体が地域の実情に応じて支援内容や対象を判断できる仕組みへの見直しを提案する。裁量を広げる一方、対象事業や支出内容等について一定の基準を設け、実績報告を義務付けるなど、適正な運用を担保する仕組みも合わせて整備する。

議員事務事業評価シート（令和7年度事業）

作成日	令和8年9月17日
議員名	足立 豪

事業No.	72		
事業名	協働推進事業（地域支え合い生活支援事業補助金）		
担当課	まちづくり社会教育課	所管委員会	総務委員会

■ 議員評価（各評価上段に○）

事業内容 の評価 (区分の説明)	廃止	要改善		現行どおり
	(事業を廃止もしくは凍結)	(事業の内容や手法に改善や見直しが必要)		(事業の内容や手法はおおむね現行どおり)
予算規模 の評価 (区分の説明)	廃止	縮小	現状維持	拡充
	(予算はゼロ)	(予算は縮小)	(予算は現状維持)	(予算は拡大)

■ 評価判定に至った理由

(事業内容について)
中山間地域で高齢者世帯の草刈り等の生活支援を担い、地域内の互助体制づくりにつながっていることから、事業の必要性は高い。令和7年度は申請団体が7団体まで増加した一方、目標10団体には届いていない。また、委員評価では、農地等が対象外となること、70歳未満の障がい者等の作業困難者が対象外となること、担い手の高齢化やマッチング事務の負担など、制度と地域ニーズのずれが指摘されている。事業を継続しつつ、対象者・対象作業・実施方法の見直しが必要と判断し「要改善」とする。
(予算規模について)
令和7年度最終予算は165万円である。利用が十分に広がっていない現状では、まず現行予算の範囲で制度改善、周知、担い手確保を進め、利用実績を検証することが妥当と考える。改善後に申請・利用が増え、予算不足が見込まれる段階で拡充を検討すべきであり、現時点では「現状維持」とする。

■ 改善・提案内容

※ 予算規模の評価を「拡充」とした場合は、財源措置の考えについても記入してください。
・対象者を高齢者のみ世帯に限定せず、障がい者等の作業困難世帯も含めて要件を見直す。 ・草刈り等は、農地・隣接地を一律に対象外とせず、生活維持に必要な範囲を明確にし、地域の実情に応じた柔軟な運用を可能とする。 ・担い手の高齢化を踏まえ、他地域の団体・事業者との連携や若い人材の参画を進め、マッチング・事務経費の扱いも検討する。 ・まちづくり総合交付金の追加枠への整理も含め、地域側の裁量を広げる一方、対象経費や実績報告等の基準を明確化する。

議員事務事業評価シート（令和7年度事業）

作成日	令和8年 月 日
議員名	川上 幾雄

事業No.	当No.72・実No.57		
事業名	協働推進事業（地域支えあい生活支援事業補助）		
担当課	まちづくり社会教育課	所管委員会	総務委員会

■ 議員評価（各評価上段に○）

事業内容 の評価 （区分の説明）	廃止	要改善		現行どおり
	（事業を廃止もしくは凍結）	（事業の内容や手法に改善や見直しが必要）		（事業の内容や手法はおおむね現行どおり）
予算規模 の評価 （区分の説明）	廃止	縮小	現状維持	拡充
	（予算はゼロ）	（予算は縮小）	（予算は現状維持）	（予算は拡大）

■ 評価判定に至った理由

（事業内容について）
・ 執行率が低調であり、制度が地域ニーズと合致していないようである。 ・ 対象者が高齢者のみであり、障がい者等作業困難者が対象となっていない。 ・ ボランティア団体の高齢化により、事業継続性に課題があるようだ。 以上により、事業目的は妥当であるが、制度設計が実情に適合しておらず、事業内容の改善が不可欠であり要改善と評価した。
（予算規模について）
・ 市民コストは極めて低く、財政負担は軽微である。 ・ 事業の必要性は高く、縮小や廃止を選択する合理性は乏しい。 ・ 制度改善による需要増加の可能性はあるが、現状維持で検証を進めることが必要。

■ 改善・提案内容

※ 予算規模の評価を「拡充」とした場合は、財源措置の考えについても記入してください。
・ 対象者の拡大（現行に加えて、障がい者等の作業困難者にも対象を拡大） ・ 草刈り支援の対象範囲の柔軟化（対象外となる草刈りについて見直し） ・ ボランティア人材の確保策（大学生等の若年層の活用、交通費補助） ・ 支援内容の拡大（地域ごとに調査を実施し支援内容を再設計する）

議員事務事業評価シート（令和7年度事業）

作成日	令和8年8月26日
議員名	柳楽真智子

事業No.	72	
事業名	協働推進事業（地域支え合い生活支援事業補助金）	
担当課	まちづくり社会教育課	所管委員会 総務委員会

■ 議員評価（各評価上段に○）

事業内容 の評価 (区分の説明)	廃止	要改善		現行どおり
	(事業を廃止もしくは凍結)	(事業の内容や手法に改善や見直しが必要)		(事業の内容や手法はおおむね現行どおり)
予算規模 の評価 (区分の説明)	廃止	縮小	現状維持	拡充
	(予算はゼロ)	(予算は縮小)	(予算は現状維持)	(予算は拡大)

■ 評価判定に至った理由

(事業内容について)
総務委員会では、現在この事業を活用されている団体へのアンケート調査と、その中の1団体にヒアリングを行った。この中で出された意見や、まだ活用していない団体から意見を聴く中で、サービス実施者の確保や事業の対象範囲の制限がニーズと合っていないこと。サービスのマッチングを行う事務局に対する手当が出せないなどの課題がある。
(予算規模について)
上記の課題を解決するために、地域団体が活用しやすいものとするのが求められる。アンケート調査では、補助金額については不十分が2団体、十分又は概ね十分が3団体、分らないが2団体という結果となっていることから、現時点では現状維持で今後の状況を見ていくことが良いと考える。

■ 改善・提案内容

※ 予算規模の評価を「拡充」とした場合は、財源措置の考えについても記入してください。
現在の補助対象が70歳以上の高齢者のみ世帯となっているが、70歳以下の障がい者等の作業困難者のみ世帯への拡大も検討が必要である。また、特にニーズの多い草刈りについては対象範囲が要望と合っていない現状が見受けられるため、地域の実情を今一度把握して見直すことが必要と考える。 予算については現状維持としたが、現在あるまちづくり総合交付金への加算も検討の余地があると考え。

議員事務事業評価シート（令和7年度事業）

作成日	令和8年9月17日
議員名	串崎 利行

事業No.	72	
事業名	協働推進事業（地域支え合い生活支援事業補助金）	
担当課	まちづくり社会教育課	所管委員会 総務委員会

■ 議員評価（各評価上段に○）

事業内容 の評価 (区分の説明)	廃止	要改善		現行どおり
	(事業を廃止もしくは凍結)	(事業の内容や手法に改善や見直しが必要)		(事業の内容や手法はおおむね現行どおり)
予算規模 の評価 (区分の説明)	廃止	縮小	現状維持	拡充
	(予算はゼロ)	(予算は縮小)	(予算は現状維持)	(予算は拡大)

■ 評価判定に至った理由

(事業内容について)
地域に支え合う生活支援の内容や、特に中山間地において安心して住み続ける環境について検証する必要がある。
(予算規模について)
事業の拡充がない限り現状維持。

■ 改善・提案内容

※ 予算規模の評価を「拡充」とした場合は、財源措置の考えについても記入してください。
地域ボランティアの広域化を検討する。草刈りボランティアの拡充する必要がある。

議員事務事業評価シート（令和7年度事業）

作成日	令和8年9月17日
議員名	小川 稔宏

事業No.	当No. 72・実No. 57		
事業名	協働推進事業（地域支え合い生活支援事業補助金）		
担当課	まちづくり社会教育課	所管委員会	総務委員会

■ 議員評価（各評価上段に○）

事業内容 の評価 (区分の説明)	廃止	要改善		現行どおり
	(事業を廃止もしくは凍結)	(事業の内容や手法に改善や見直しが必要)		(事業の内容や手法はおおむね現行どおり)
予算規模 の評価 (区分の説明)	廃止	縮小	現状維持	拡充
	(予算はゼロ)	(予算は縮小)	(予算は現状維持)	(予算は拡大)

■ 評価判定に至った理由

(事業内容について)
執行率の低さについて執行部からは制度の周知不足と支える側の問題があるといわれている。勤労者の定年退職年齢の高年齢化による担い手不足と併せてボランティア依存の限界も直視すべきである。需要の多い草刈り支援では農地や市道は対象外となるため実情に合わない面もあるといわれている。直接支援ではなく、共助を作ることが目的とされていることから制度に無理が生じている。
(予算規模について)
現状維持

■ 改善・提案内容

※ 予算規模の評価を「拡充」とした場合は、財源措置の考えについても記入してください。 福祉部門との連携と調整による制度見直しが必要である。ボランティア依存から脱却し、シルバー人材センターの事業との連携や国に対し過去にあったような失業対策事業の復活を要望することなどを含めた抜本的な草刈り対策が必要と考える。

議員事務事業評価シート（令和7年度事業）

作成日	令和8年9月4日
議員名	笹田 卓

事業No.	当No. 72・実No. 57		
事業名	協働推進事業（地域支え合い生活支援事業補助金）		
担当課	まちづくり社会教育課	所管委員会	総務委員会

■ 議員評価（各評価上段に○）

事業内容 の評価 (区分の説明)	廃止	要改善		現行どおり
	(事業を廃止もしくは凍結)	(事業の内容や手法に改善や見直しが必要)		(事業の内容や手法はおおむね現行どおり)
予算規模 の評価 (区分の説明)	廃止	縮小	現状維持	拡充
	(予算はゼロ)	(予算は縮小)	(予算は現状維持)	(予算は拡大)

■ 評価判定に至った理由

(事業内容について) 市民団体や地域住民による協働・共助の取組を支援する本事業は、地域コミュニティの維持や中山間地域の生活支援を進める上で必要性が高い。令和7年度は市民協働活性化支援事業で29団体、地域支え合い生活支援事業で7団体を支援するなど一定の成果がある。一方、補助事業ごとの成果や、補助終了後の活動継続状況などについては十分な検証が必要であり、担い手不足や団体の高齢化への対応も含め、事業内容の改善を求める。
(予算規模について) 令和7年度は予算現額7,487千円に対し決算額5,251千円、執行率70.13%であった。特に地域支え合い生活支援事業は、当初予算1,650千円に対し決算額660千円となっている。現時点では地域の協働・共助を支えるため現状の予算規模を維持するが、今後は実績や利用状況を踏まえ、各補助制度の予算配分を精査する必要がある。

■ 改善・提案内容

※ 予算規模の評価を「拡充」とした場合は、財源措置の考えについても記入してください。
(事業内容について) 補助団体数だけでなく、活動件数、利用者数、受益者数などの成果指標を設定し、補助金による具体的な効果を検証すること。また、ボランティア団体の高齢化や担い手不足に対応するため、事業者、他地域の団体、有償ボランティア等との連携を進め、地域だけで継続的に支えられる仕組みづくりを進めること。
(予算規模について) 令和7年度の執行実績を踏まえ、補助制度ごとの利用実績と効果を検証し、必要な事業に重点的に予算を配分すること。特に予算執行率の低い事業については、制度の周知不足や利用条件等の課題を分析し、予算額と実績の乖離を縮小すること。

議員事務事業評価シート（令和7年度事業）

作成日	令和8年8月27日
議員名	岡本 正友

事業No.	72	
事業名	協働推進事業（地域支え合い生活支援事業補助金）	
担当課	まちづくり社会教育課	所管委員会 総務委員会

■ 議員評価（各評価上段に○）

事業内容 の評価 （区分の説明）	廃止	要改善		現行どおり
	（事業を廃止もしくは凍結）	（事業の内容や手法に改善や見直しが必要）		（事業の内容や手法はおおむね現行どおり）
予算規模 の評価 （区分の説明）	廃止	縮小	現状維持	拡充
	（予算はゼロ）	（予算は縮小）	（予算は現状維持）	（予算は拡大）

■ 評価判定に至った理由

（事業内容について）
まちづくりセンターによる地域の困りごとへの支援は評価できる。一方、久佐では草刈り支援の実績があるものの、買い物支援の利用はなく、他地域での取り組みも少ないことから、事業の周知や地域のニーズに応じた支援内容・範囲の検討が必要と考え、「要改善」とした。
（予算規模について）
事業内容の改善に伴い、今後どのような取り組みや経費が必要となるか現段階では明確でないため、まずは現行予算の中で取り組みを検証することが適当と考え、「現状維持」とした。

■ 改善・提案内容

※ 予算規模の評価を「拡充」とした場合は、財源措置の考えについても記入してください。
久佐まちづくりセンターで実施している高齢者への草刈り支援などの事例を各まちづくりセンターで共有し、事業の周知を図られたい。また、中心市街地を含め、地域ごとの困りごとやニーズを把握し、買い物支援なども含めた支援内容や対象範囲の見直し・拡大を検討されたい。

議員事務事業評価シート（令和7年度事業）

作成日	令和8年8月17日
議員名	芦谷 英夫

事業No.	当No. 72・実No. 57		
事業名	協働推進事業（地域支え合い生活支援事業補助金）		
担当課	まちづくり社会教育課	所管委員会	総務委員会

■ 議員評価（各評価上段に○）

事業内容 の評価 (区分の説明)	廃止		要改善	現行どおり	
	(事業を廃止もしくは凍結)		(事業の内容や手法に改善や見直しが必要)	(事業の内容や手法はおおむね現行どおり)	
予算規模 の評価 (区分の説明)	廃止	縮小		現状維持	拡充
	(予算はゼロ)	(予算は縮小)		(予算は現状維持)	(予算は拡大)

■ 評価判定に至った理由

(事業内容について)
過疎化・高齢化に伴う生活支援の事業であり草刈りなどが主事業であるが、類似の事業はほかにもあり高齢者などの生活支援につながるよう、地域組織の受け入れ体制などの検討が必要である。
(予算規模について)
指摘する他事業との調整の必要があるが、現状維持とし事業の充実を図る。

■ 改善・提案内容

※ 予算規模の評価を「拡充」とした場合は、財源措置の考えについても記入してください。
中山間地域などの草刈りなどにより生活支援事業であり、他の類似の事業では中山間地域等直接支払事業（No.187）、多面的機能機能支払交付金事業（No.190）、農用地保全事業（No.192）、道路維持修繕費（No.254）などがあり、これらは地域協定組織、取組組織、地域組織などが行っており、これらとまちづくり推進委員会との一元化、役割分担など調整を図る必要がある。

議員事務事業評価シート（令和7年度事業）

作成日	令和8年8月26日
議員名	佐々木豊治

事業No.	72		
事業名	協働推進事業（地域支え合い生活支援事業補助金）		
担当課	まちづくり社会教育課	所管委員会	総務委員会

■ 議員評価（各評価上段に○）

事業内容 の評価 (区分の説明)	廃止	要改善	現行どおり	
	(事業を廃止もしくは凍結)	(事業の内容や手法に改善や見直しが必要)	(事業の内容や手法はおおむね現行どおり)	
予算規模 の評価 (区分の説明)	廃止	縮小	現状維持	拡充
	(予算はゼロ)	(予算は縮小)	(予算は現状維持)	(予算は拡大)

■ 評価判定に至った理由

(事業内容について)
事業目的として高齢者世帯など、草刈り等ができない世帯への支援が主な目的と思う。 しかしながら、地域で支え合うことや農地は対象外など、本来の目的に即してないことが 聞き取りなどから大きな問題点としてより浮き彫りになった。 草刈り支援の需要は圧倒的に多いと考えられるため、使いやすい制度、縛りを解くなど事 業内容の改善が必要と考える。
(予算規模について)
草刈り支援の需要は圧倒的に多いので、事業改善による予算の拡充も当然必要となるが、 その事業内容によって予算も定まってくるのではないかな。

■ 改善・提案内容

※ 予算規模の評価を「拡充」とした場合は、財源措置の考えについても記入してください。
当然、市全体の予算の積み上げで確保していくべき重要な事業と考える。 場合によってはふるさと寄付の活用も検討すべきではないかな。

議員事務事業評価シート（令和7年度事業）

作成日	令和8年8月27日
議員名	西田 清久

事業No.	72			
事業名	協働推進事業（地域支え合い生活支援事業補助金）			
担当課	まちづくり社会教育課	所管委員会	総務委員会	

■ 議員評価（各評価上段に○）

事業内容 の評価 (区分の説明)	廃止	要改善	現行どおり	
	(事業を廃止もしくは凍結)	(事業の内容や手法に改善や見直しが必要)	(事業の内容や手法はおおむね現行どおり)	
予算規模 の評価 (区分の説明)	廃止	縮小	現状維持	拡充
	(予算はゼロ)	(予算は縮小)	(予算は現状維持)	(予算は拡大)

■ 評価判定に至った理由

(事業内容について) 利用者の声、ボランティア団体の声をしっかり聴いて、少しずつ柔軟に対応を検討。（事業内容の明確化・ニーズの拡大）
(予算規模について) 現状で良いと考える。

■ 改善・提案内容

※ 予算規模の評価を「拡充」とした場合は、財源措置の考えについても記入してください。 ・この事業費の活用としては、草刈りの実績が主であるが、実施団体が徐々に高齢化して地域の持続可能性が、厳しさを増してくる。 ・また活用分野を広げていくには、技術や専門性も必要となり、利用者負担基準も見直すことも考えられる。 ・ボランティア団体の中に若い人材が必要となってくるが、支援内容によっては、大学生等の活用も視野に入れておくことも考えられる。
--

議員事務事業評価シート（令和7年度事業）

作成日	令和8年8月27日
議員名	川神 裕司

事業No.	72		
事業名	協働推進事業（地域支え合い生活支援事業補助金）		
担当課	まちづくり社会教育課	所管委員会	総務委員会

■ 議員評価（各評価上段に○）

事業内容 の評価 （区分の説明）	廃止	要改善		現行どおり
	（事業を廃止もしくは凍結）	（事業の内容や手法に改善や見直しが必要）		（事業の内容や手法はおおむね現行どおり）
予算規模 の評価 （区分の説明）	廃止	縮小	現状維持	拡充
	（予算はゼロ）	（予算は縮小）	（予算は現状維持）	（予算は拡大）

■ 評価判定に至った理由

（事業内容について）
高齢者世帯の困りごとである草刈り作業への活用が実績として増加しており、今後もこの状況は変わらないものと推察する。今後、この事業を受ける団体は高齢化等により十分な体制が組めないとの状況である。この事業は必要なものと判断するが、より実情に対応できる制度の見直しは求められるものとする。
（予算規模について）
事業の運営に関しては改善が必要と考えるが、利用状況を考慮して財源的には妥当であるとする。

■ 改善・提案内容

※ 予算規模の評価を「拡充」とした場合は、財源措置の考えについても記入してください。
本事業の必要性はより増加するものとする。ただし現在の本事業に該当する、作業面積や作業地目に関してグレーゾーンが存在し、今後はより活用しやすい要綱に改善することが求められる。もしくは委員会で意見として出されていた、まちづくり総合交付金へ組み込み拡充する考えも良いのではないかと。